

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	西亀有三丁目保育園
施設所在地	東京都葛飾区西亀有3-31-9
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

触れて試して楽しんで②

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

開園してから三年目。子どもたちの人数に対して玩具が足りず、様々な遊びの経験が出来ていない。毎日同じようなもので遊んでいる。特に1, 2歳児は遊びの幅が狭く、取り換える玩具の数や種類が少なかった。手先を使った遊び、認知力を育てるものが少なく、特に子どもが育ってくる後半にじっくりと机上で遊ぶものが足りていない状況で子どもの繰り返す、遊びながら形や色、数などを学んでいく子どもの興味・関心にこたえるものが少ない状況であった。

2. 活動スケジュール

【子どもの観察とスタッフの意識統一】10月

・活動の方針についてスタッフで子どもたちの様子を見て話し合いを行う

【一人一人がじっくりと】10月

一人ひとりが自分の興味のあるものを手にし、一定時間一人遊びを楽しむ。何度も繰り返し、一定時間で出来上がった、出来た、楽しんだと思えるものを豊富にそろえるようにする。目新しさから単に集める、手もちにするだけの子どももいるため、一緒に遊んだり、やって見せる、友だちのしていることに気づかせるなど遊びそのものに目が行き、やってみようとする気持ちの芽生えを待つなどしていく。

【遊ぶ中で共感する・何度も繰り返す】10月～2月

パズルなど種類と数を豊富に用意しその子の力量に応じて、すぐに出来ることで小さいながらも達成感を感じられるようにする。出来たら次はもう少し難しいものと段階をあげて行くことを楽しむ。手先や認知力につながる玩具を用意し繰り返す中でわかって出来ることを楽しむ。ごっこ遊びが広がる道具を用意し、友だちとイメージを共有して遊びを楽しむ。子どもたちの経験から言葉を交わし、保育士が中に入ることで遊びの継続を図っていく。

【友だちと一緒に遊ぶ】1月～2月

大人がいなければ続かなかったことが経験を豊かに積むことで、友だちと一緒に見る、一緒に使う事を受け入れ、一緒に見たり、遊ぶことに楽しさを感じるようになる。同じもの見て視線を交わし、笑い合う。玩具を介して関り、おなじ空間と時間を共有し、一緒に遊ぶことを楽しむ。

【活動を振り返る】

11月 活動の振り返り 2月 活動のまとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

玩具を適宜入れ替え、子どもたちの興味、関心を掻き立てていく。以前遊ばなかった子が友だちの中で玩具の使用が一回りし、様子を観察している中で興味が芽生え、新しい玩具で遊び出せるようになっていくことを想定し様子を見守る。年齢に応じて、妥当な種類や数を検討しながら取り組んでいく。

絵本「おつきさまのパンケーキ・わにわにのおでかけ・やさいのおなか・おべんとうばす・私のワンピース・やきそばばんばん・ねずみくんのうんどうかい） 献立と連動し活用

ジグソーパズル各種 たべもの、のりものを十数種類選択。身近なものを題材に興味をもって遊び、段階をあげて楽しめるようにする。日本列島パズル（献立の郷土料理や旅行の経験から興味を持つなど関心の幅を広げる）型はめ

絵本（おせち・おせちのおしょうがつ・どうぶつ100・のりもの100・たべもの100）

写真絵本は複数冊用意し、同じものを一緒に見る、みたい時に繰り返し見られるようにする。身近なもの、興味のあるものを写真でわかりやすく共通理解の中で一緒に楽しめるようにする。

図鑑（きょうりゅうずかん・恐竜ずかん・小学館の図鑑恐竜）恐竜のフィギア 恐竜への興味関心が高い子どもを中心に遊びを広げ、描く、作る（フィギアと積み木やブロックを使用し、正解間を表現する）遊びへと発展していけるよう用意する。

ジッパーポーチ：パズル類をしまう。中が見え、子どもたちが選びやすいようにする。

アーサーランニング お医者さんセット（クラス分）子どもたちの生活再現がしやすいよう、また同じ玩具で遊ぶことで継続性を持てるようにする。

リトミックダンススカーフ 見立てやすいものとして導入。カラフルな色に触れ色彩感覚を養う。

しましまカラフルジム 0歳児が様々な感触や音、動きを楽しむのに使用。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【子どもの観察とスタッフの意識統一】

スタッフが子どもたちの様子を観察し、どんな活動を行うか意見を出す。子どもたちの遊びな中で不足しているものや遊びを洗い出し、物的環境を整えていく。子どもが自分の好きなものを見つけて遊べるようにしていくことを方針として確認した。

【一人一人がじっくりと】

数や種類が増えたことで子どもたちがじっくり遊べる機会が増えた。それでも目新しさから単に集める、手もちにするだけの子どももいるため、一緒に遊んだり、やって見せる、友だちのしていることに気づかせるなど遊びそのものに目が行き、やってみようとする気持ちの芽生えを見逃さず、その子の興味のあるもので一緒に遊んでいく。

【遊ぶ中で共感する・何度も繰り返す】

パズルなど種類と数を豊富に用意しその子の力量に応じて、遊べるようにする。子どもによっては単に手元に置いておくだけの子どももいるため、保育士がその子の興味、力量に応じたものにさりげなく誘い、試して楽しめるようにしていった。ある程度の時間で出来ることで小さいながらも達成感を感じられ、何度も繰り返して遊び、できたものを並べ、満足すると次の人に譲る、次の段階のものを試そうとする。出来たら次はもう少し難しいものと段階をあげて行くことを楽しむ。少しずつ集中する時間も伸びていく。手先や認知力につながる玩具では、繰り返す中でわかって出来ることを楽しむ。形や色を分ける、見立て遊びやごっこ遊びが広がる小道具が増えたことで友だちとイメージを共有して遊びを楽しむ。生活の再現遊びとして子どもたちの経験から言葉を交わし、保育士が中に入ることで遊びの継続していく。

【友だちと一緒に遊ぶ】

大人がいなければ続かなかったことが経験を豊かに積むことで、友だちと一緒に見る、一緒に使う事を受け入れ、一緒に見たり、遊ぶことに楽しさを感じるようになる。同じもの見て視線を交わし、笑い合う。玩具を介して関り、おなじ空間と時間を共有し、一緒に遊ぶことを楽しむ。

【活動を振り返る】

保育士間で子どもたちの姿を振り返り、共有する。子どもたちが次のステップに進むための環境設定を考える。保護者にドキュメンテーション等を通して活動の様子を発信していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

最初は目新しいものに殺到するような姿があったが、数や様々な種類があることから遊びが分散していく。年齢的なものがパズルでは示されているが、子どもは何でも出してきてしまうため、様子を見ながら、ピースの数を子どもたちに合ったものにする。出すだけ出して出来ないとすぐにいなくなる子もいるが、じっくりとピースの向きをあちこちに変えながらはめようとする子もいる。無理にはめようとするため、形や絵柄に気づかせ、はめ込めるようにする。はめ込むことができた時、難しいと感じた時に保育士の顔見て、合っているか確かめる。子どもが考え、思考、試行を巡らせているときには一緒に考えるというスタンスを保ち、考えずにやってほしい子には糸口を示して行く。子どもはできた時に「できた!」という子もいれば保育士の方に顔を向けにっりと笑う子もいる。その子なりの達成感やできた喜びに寄り添う。再現遊びでは「今日はどうしましたか?」との言葉に「熱が出ました。おなかが痛い」などと答える。こちらがなり切って対応すると保育士の言葉や動きをじっと見つめている。順番争いをしそうになるたびにごっこ役割として話しかけるとすぐに今の自分を脇においてごっこ世界に戻ってくる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組み前の姿

➡おもちゃが少ないために争いが多く、遊ぶより持っているという子がいる一定数いた。保育士もその対応に追われたり、順番を待つ、譲り合うことを子どもたちに教えることが多かった。うろうろと部屋を歩いている子が一定数いた。遊べない子どもと認識で見ている。

取り組みよる変化

➡取り合いは一定数いるが、自分のしたいあそびを見つけて遊ぶ子が多くなる。自分の好きな遊びを存分に出来ることが増える。年齢を問わず、机上遊びが増えたことで部屋を走り回る子どもが減る。子どもたちが自由に遊ばせるという事と、子どもの発達、個々の段階に合わせて玩具を選んだぶなど調整すること必要性を保育士が学ぶ。時間帯によって玩具を入れ替えることを考え始める。子どもの遊びの選択肢が広がった。

気づき

➡子どもたちにとって玩具の種類や数はとても大切だと子どもたちの姿から学んだ。トラブルとなる原因の一つでもあることを改めて再認識する。玩具があれば子どもたちは自ずと遊びだし、大人を求めない。保育士はそばで見守り、子どもが必要とする時に思いに応えたり、子どもなりの次の段階に進めない時に援助する。単純なことを繰り返すことが安心感につながる。ごっこ遊びは子どもがイメージを膨らませる道具を用意するだけで再現遊びはリアルさを生む。保育士の援助や配慮としてどんな玩具を用意することが子どもの今の興味・関心、発達に合っているのか、子どもの次に求めるものは何なのか適宜振り返り、検討することが大切だと考えた。

今後への展望

➡子どもたちが様々な素材、色彩、子どもの発想で使い方が多彩な玩具などより幅を広げたもので遊ぶ機会を与えていきたい。各クラス、乳児、幼児、そして全体で園内の玩具を半年に1度など見直し、クラス共通、園全体共通で玩具をそろえていく。その玩具の子どもに寄与すること、何を育てるのか。また、与えたい経験は何かなど玩具で遊ぶとは何かという事をじっくり考え、深掘し、選んで与えることを保育士とスキルとして高めていきたい。